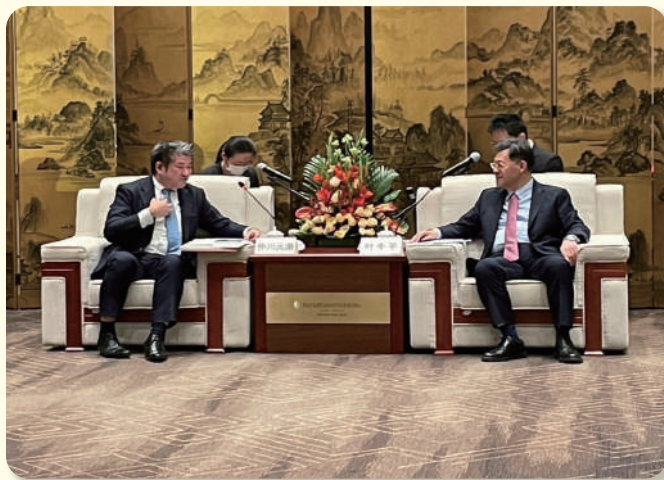


仲川奈良市長一行が中華人民共和国の西安市を訪問

2024年1月18日～21日にかけて、仲川げん奈良市長、北良晃奈良市議会議長を含む計7名による奈良市訪問団が、今年2月1日に友好都市提携50周年を迎える西安市を訪問しました。

1月19日には、仲川市長と叶牛平西安市長との間で、友好都市交流・協力の更なる深化に関する協力覚書を結びました。表敬の際、叶西安市長は「奈良は、西安が最初に提携した国際友好都市で、古い友人である。今回の来訪は新たな50年間の交流のスタート地点となった。今回の来訪をきっかけに、是非西安市の今を知っていただきたい。」と挨拶、これに応じて仲川市長は、「10年ぶりに訪問した西安市の経済発展に大変驚くものがあった。奈良市も2037年のリニア中央新幹線名古屋以西の延伸に向けて、産業の発展が期待されることから、共に協力を図ってきたい。」と挨拶しました。



表敬訪問時の様子



署名後の記念撮影に応じる両市長

訪問団はまた、今後の西安市との交流について経済部門の関係者と会談を行い、産業分野でも交流を深めていく意思を強めました。

翌1月20日には、1979年(提携50周年)に西安市が建立した阿倍仲麻呂記念碑を訪問し、両市の交流の歴史の深さを改めて確認しました。

「寄稿者:奈良市」



経済部門の関係者との会談



阿倍仲麻呂記念碑

フレンドシップス

FRIENDSHIPS



大唐不夜城(西安市)

奈良市国際交流協会

ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長

奈良市長 仲川 げん



春暖の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、奈良市政並びに国際交流事業に多大なるご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染対応が進み、日常生活や様々な社会活動が正常化に向けて大きく前進しました。国際文化観光都市である奈良市の国際交流活動も元のように活動できるようになりました。

さて、そのような中で、昨年の奈良市と友好姉妹都市との交流を振り返りますと、4月にはオーストラリアのキャンベラからアンドリュー・バー首都特別地域(ACT)政府首席大臣一行4名が来寧、7月には韓国の慶州市から李哲雨(イ チョルウ)慶州市議会議長一行6名と、中国の揚州市から張礼涛(チョウ レイトウ)揚州市副市長一行6名が来寧されました。

また、10月18日からウズベキスタン・サマルカンド市を訪問、招待を受けたUNWTO(国連世界観光機関)総会に出席し、奈良市とサマルカンド市のシルクロードを通じたつながりや奈良市について、世界中からの大勢の参加者に向けてプレゼンテーションをさせていただきました。

そして、11月3日からは、奈良市議会副議長、同観光文教委員会委員長とともに、姉妹都市提携30周年を迎えたキャンベラを訪問、アンドリュー・バー首席大臣と再会し、交流の更なる活発化について話し合いました。

さらに、今年の1月18日から友好都市提携50周年を迎えた中国の西安市を訪問し、友好と親善を深めてまいりました。

国際交流には、国境の壁を取り除き、人と人とが触れ合える平和な関係構築に寄与できる面があることに加えて、従来よりもさらに質の高い観光商品を提供していくことが課題となってくると考えます。

会員の皆様におかれましては、今まで培われてこられた知識と経験を生かし、さらに奈良市を拠点に市民同士の国際交流活動を活性化していただきたいと思います。本市といたしましても、海外からの観光客誘致を含め市内の受け入れ体制を「おもてなしの精神」にのっとり整備していくことが重要であると考えております。

最後になりますが、会員の皆様方におかれましては、引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご多幸を祈念してご挨拶いたします。

奈良市国際交流協会会員の皆さまへ

奈良市国際交流協会

会長 河野 良文



春風がそよいで草木なびき、雲間の陽光も輝きを増してまいりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

昨年は新型コロナウイルス感染症の対応が5類に移行され、コロナとの共存を考える時代になりました。

社会の変化に伴い、交流の形態も変化が求められてきましたが、やっと本来の対面での交流や、元の規模での活動ができるようになってまいりました。多様で豊かな社会の実現をめざし、国際交流を続けておられる会員の皆様の熱意に、心からの敬意と感謝の意を表します。

当協会が令和3年度に立ち上げた「奈良市国際交流出前講座」(奈良ロータリークラブ協賛)は、各国の留学生が市内の小中学校を訪問し、自国の生活文化を紹介するという事業ですが、3年目を迎えた令和5年度は、12の学校で開催することができました。本事業を通して、外国の文化を体験した子どもたちが、外の世界に興味を持ち、どんどん海外にも出かけて行って世界の舞台で活躍してくれることを期待しています。そして将来、奈良をさらに開かれた国際文化都市へと牽引してくれるものと信じています。

さて、コロナ禍以後は、ソーシャルメディアやオンライン交流などを通じて、誰もが手軽に世界とのつながりを体験できるようになり、海外との距離感は飛躍的に縮まったのではないのでしょうか。国際交流は質的变化の時代を迎えたといえます。今後は、このような変化に対応しながら、お互いを理解するためのたゆまない努力がますます必要になることと思います。当協会でも、これまでの交流活動を本格的に再開させることはもちろん、新しい形の交流にも力を注いでまいりたいと思います。様々な活動を通じて国際交流の絆を紡いでこられた会員の皆様には、これからもお力添えを頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、当協会の活動が奈良市と世界各国の都市との友好交流の一助となり、世界的な友好の輪がさらに広がっていくことを心から願いたしますとともに、会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念し、ご挨拶いたします。

NaFu! 国際チャリティーコンサート

日時: 2023年9月24日(日) 場所: 奈良公園バスターミナル レクチャーホール

今年もスリランカに井戸を贈ることを目的とするチャリティーコンサートを開催しました。フルート野原剛、ファゴット滝本博之、ハープ南城愛の三人が奏でる美しいクラシック音楽を、多くの県民市民に楽しく体感してもらうことが出来ました。

そして、スリランカ井戸プロジェクトのパネル展示や、水に困窮するスリランカの実情を参加者の方々にお知らせし、井戸を贈るための募金を呼びかけました。

また、今回のコンサートに奈良県の視覚障害者の方を招待したところ、視覚障害者7名、介護者5名の参加があり、大変喜んでいただきました。

現在スリランカは物価の高騰など経済状態が悪く、井戸プロジェクトがなかなか進まない状態ですが、引き続き支援活動を継続して参りたいと思います。

皆さま、ご支援本当にありがとうございました。

「寄稿者:NPO法人国際交流ならふれあいの会
代表 野原純子」



フルート、ファゴット、ハープの三重奏

NaFu! 国際交流 One day Camp 2023

日時: 2023年10月29日(日) 場所: 奈良市中部公民館

このCampは、対外的にはNara Japan をアピールし、奈良市在住の参加者には国際文化観光都市奈良の輝きと誇りを胸に刻み、奈良市を世界に発信する青少年リーダーを養成する、楽しみが盛りだくさんの体験型イベントです。

人と人のふれあいは素晴らしい! 初めて参加するメンバーも大興奮の一日でした。

参加者による街角インタビューや独自のプレゼンテーションを実施するなど、参加者にとって実に面白く新鮮な一コマコマとなりました。それは自分自身をみつめ直し、再発見する場でもありました。友達がができることは、相手を理解し、一人一人を尊重すること。そこから生まれる喜びで、参加者らは感動で目からうろこの連続と成りました。

今やこのプログラムは、参加者自身が積極的な取り組みで作り上げる唯一無二の事業となり、奈良の秋に成果を実らせました。そして笑顔で再会を約束しました。

「寄稿者:NPO法人国際交流ならふれあいの会 代表 野原純子」



One Day Campフィールドワークでの記念撮影



One Day Camp座学の様子

第12回大安寺国際縁日 ～多彩な文化が織りなす国際交流フェスタ～

日時: 2023年11月3日(祝) 場所: 大安寺

大安寺は日本の最初の官立寺院であり、奈良時代、多くの僧が学ぶ大学として、インド、ベトナムや中国などから招いた高僧のための迎賓館としての役割を担っていました。また、大安寺周辺は「市」で賑わい、国際交流の場でもありました。このような歴史的背景を持った大安寺にて、各国留学生と地域住民との文化交流を現在に再現させた催しものとして行いました。

第一部は大安寺境内にある獅子吼殿で奈良在住の方による各国音楽演奏を、第二部は野外の舞台で留学生や奈良市の学生、市民団体による歌や演奏を行いました。舞台の周りには留学生による7つの各国料理の屋台と12の地元民間店が出店し、市民との交流を行いました。

また、2023年はベトナムとの外交樹立50周年という年で40名近くのベトナム僧やベトナム領事館の方が参加され、舞台にて歌の披露もありました。全体で約1300人の参加者があり、各国の民族衣装を着る体験コーナーを設けたことで華やかな会場となり、大いに盛り上がりしました。さらに奈良県立図書情報館による本の貸出や囲碁将棋教室を行い、文化的な催しも加えました。次年度からはこれをさらに進めていきたいと考えています。

「寄稿者:NARA STAG CLUB 理事 田中栄一」



獅子吼殿でのコンサート風景



野外舞台上での留学生のパフォーマンス



留学生による屋台



ベトナム僧の挨拶と演奏



民族衣装・天平衣装を着た方々



最後の演目「大安寺音頭」をみんなで踊る様子

日本トスティ歌曲コンクール2023 イタリア・トスティ歌曲コンクール日本予選大会

日時：2023年10月7日（土）～9日（祝） 場所：秋篠音楽堂

イタリア近代歌曲を代表する作曲家フランチェスコ・パオロ・トスティ（1846～1916）の歌曲による「日本トスティ歌曲コンクール2023」をイタリア・トスティ協会との共催のもと、日本とイタリアの共同事業として実施し、本入賞者を今年の12月にイタリアで開催予定しているトスティ歌曲コンクール「イタリア本選大会」に日本の代表として奈良から派遣します。

本コンクールは、2003年より4年ごとに開催、今回で6回目の開催となり、国際文化交流を主軸とした高い水準のコンクールとして日本の音楽界で注目され、多くのご支援のおかげで大きく成長しました。

今回は、北海道から沖縄まで日本全国から140名のエントリーがあり、公開2次審査、最終審査を10月7～9日に奈良市の秋篠音楽堂で開催しました。イタリア人審査委員も加わった最終審査では、12名のファイナリスト達のハイレベルな演奏に、緊迫した空気と、会場いっぱいのお客様の温かい声援が一つになりました。「言葉の命」と「美しい音」が織りなす歌曲の魅力を追求したコンクールでした。

1996年から始まった27年間の「日伊国際文化交流」の功績に対して、イタリア総領事から総領事賞が授与されたことは、奈良から発信してきました日伊国際文化交流の取り組みの大きな成果となりました。

「寄稿者：日本トスティ歌曲コンクール2023実行委員長 古川 朋子」



1位入賞者の森翔梧さん



トロフィーを授与された1位入賞者



賞状を授与される1位入賞者



フィナーレの様子

2023 インドネシア料理教室

日時：2023年9月16日（土） 場所：奈良市立西部公民館

奈良市立西部公民館内の調理実習室で、恒例の「インドネシア料理教室」を開催しました。この料理教室は、当友好協会の設立以来継続実施している行事ですが、この度のコロナ禍により3年間中止せざるを得なかった状況の中、やっと再開できたという喜びもあり、大変盛り上がった集いとなりました。

当行事の目的は、奈良に来ているインドネシアの留学生及び奈良在住のインドネシアの方々を招待し、我々会員や一般参加の日本人と一緒にインドネシア料理を作り、その成果を味わい、そして語り合いながら友好親善を図っていかうとするものです。

今回トライした料理は、①ミーアヤム・ジャムル・バクソ・パンシトゴレン（鶏肉とマッシュルーム肉団子とワンタン汁そば）、②タフ・イシ・サフラン（野菜詰め厚揚げ）、③ルジャック（インドネシア風サラダ）の3種類です。料理の出来栄は、今回もまた大好評でした。

最後には、当友好協会の岩本会員のハーモニカ伴奏によりインドネシアの歌を全員で歌って再会を願い、別れを惜しみました。

「寄稿者：日本インドネシア友好協会奈良会長 小谷 勝彦」



料理を前にポーズをとる参加者



出来上がった料理を皆で試食しました



ミーアヤム・ジャムル・バクソ・パンシトゴレン



参加者全員での記念撮影

第41回全日本中国語スピーチコンテスト奈良県大会

日時：2023年10月22日（日） 場所：奈良市中部公民館

去る10月22日（日）13:30より、奈良市中部公民館におきまして、第41回全日本中国語スピーチコンテスト奈良県大会を実施しました。

本年は昨年の18名を上回る20名の参加で、出場者は日頃の練習の成果を思う存分発揮されました。中でもスピーチ部門大学生の部で優勝された方は、内容、スピーチともに審査員の先生からも高い評価を得、東京本選に推挙されました。このほかにも朗読部門一般の部、中高生の部、大学生の部から各一名が本選に推挙され、奈良大会から計4名の方を本選に推挙しました。本選での活躍が楽しみです。

また審査中の時間を活用して、本年は中国ゆかりの漢詩「春望 杜甫」を留学生による朗読とともに井上寿美先生（吟号彩世：奈良教育大学大学院教育学研究科伝統文化教育・国際理解教育専攻2回生）による詩吟披露、また、漢詩「静夜思」の井上先生の詩吟と本会の何成鋼副会長の揮毫（書道吟）披露で大いに盛り上がりました。スピーチコンテストの場を活用して、中国から伝わった漢詩と詩吟、書道吟の融合で日中友好にふさわしい会となりました。

「寄稿者：奈良県日本中国友好協会事務局次長 塩崎 義郎」

部 門		参加人数
朗読部門	一般の部	5
	大学生の部	3
	中高校生の部	4
暗唱部門	一般の部	1
	大学生の部	3
	中高校生の部	0
スピーチ部門	一般の部	2
	大学生の部	1
	中高校生の部	1
合 計		20



大学生スピーチ部門



参加者全員での記念撮影

第23回日中友好日本語スピーチコンテスト

日時：2023年7月22日（土） 場所：奈良市生涯学習センター

本年度の「日中友好日本語スピーチコンテスト」には70名ほどの参加者が集まり、学生たちによる発表と帰国者による発表が行われました。毎年、開催する度に思いますが、段々とレベルが上がっていると感じます。

発表後、審査員が採点する間、参加者は太極拳のアトラクションを楽しみました。そして大賞と優秀賞の受賞者の発表、最後に講評で締めくくり、無事にスピーチコンテストが終了しました。

奈良市日本中国友好協会の発足以来、このスピーチコンテストを開催していますが、近年は、発表者不足で毎年ひやひやさせられます。なにしろ発表者がいなければ始まりません。今後は、開催の周知を徹底して幅広く発表者を募集するなど、早くから呼びかけたいと思います。

また、費用、個人情報、コロナ等、様々な問題がある中、なんとか皆様のご協力のもと、続けております。奈良市国際交流協会、奈良地域中国留学生学友会、奈良中国帰国者支援交流会、奈良県中国帰国者連絡会、太極拳・体操クラブの方々に助けられ、本年度も無事に開催できましたことを感謝しております。今後とも関係団体様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「寄稿者：奈良市日本中国友好協会事務局 中川 久雄」



受賞者との記念撮影

奈良市慶州市親善卓球大会

日時：2023年10月22日（日） 場所：南部生涯スポーツセンター体育館

奈良市卓球協会は、5年ぶりに、慶州市卓球協会との間で親善卓球試合をはじめとした交流を持ちました。

今年は、両協会が姉妹都市提携をして、ちょうど30年目にあたる年です。その間、多くの交流を通じて深い友情を築いてきましたが、長年にわたるこの交流が模範的な交流であると、慶州市で認められました。そこで、今回は慶州市卓球協会、全晋澤会長以下23名の会員のほかに、慶州市体育政策チーム、慶州市体育会の方々7名も参加され、交流の様子をつぶさに見ていただきました。

試合の結果は、若さが勝る慶州市側が勝利を収めました。奈良市側は70歳以上が12名いましたが、大変奮闘いたしました。両市とも女子大学生が4名ずつ参加しました。お互いスマホを通じて自由に意思疎通する様子に驚かされました。

親善試合のあとは奈良県庁の屋上、古城園、東大寺を回りました。東大寺は華嚴宗の寺ですが、それが新羅から伝えられたことなど、朝鮮半島との深い関係について話しました。

夜の歓迎晩餐会では奈良市側から市長（代行）、奈良市スポーツ協会の方々のご参加もいただき、大いに盛り上がり、さらなる友好を深めることができました。このスポーツによる国際交流が長く引き継がれていくことを願ってやみません。

「寄稿者：奈良市卓球協会会長 尼崎 勝己」



5年ぶりに開催された親善試合の様子



両市の女子大学生も参加し交流しました

仲川奈良市長一行がウズベキスタン・サマルカンド市を訪問

2023年10月17日～10月21日にかけて、仲川げん市長、九里雄二奈良市議会副議長を含む計7名による奈良市訪問団がサマルカンド市を訪問しました。同市で初めて開催された「第25回UNWTO(国連世界観光機関)総会」へ奈良市長が招待を受けたことを契機とした訪問であり、同総会出席の他、サマルカンド市長表敬や同市公立学校及び文化財施設などへも訪問しました。また首都タシケント市において、同国の博物館と文化財を管理統括するウズベキスタン政府組織との間において、将来に奈良市で開催を計画する「ウズベキスタン特別交流展」に係る展示協力覚書を交わしました。

「第25回UNWTO総会」では奈良市長がプレゼンテーションを行い、奈良市が2022年10月18日にサマルカンド市とシルクロードを縁に姉妹都市提携を結んだことや奈良市における鹿と人の共生環境、1300年前からSDGsの考え方が包摂されてきたこと、奈良観光が体现するESD(持続可能な開発のための教育)について紹介しました。また、2025年の大阪・関西万博の機会に来寧していただけるよう呼び掛けも行いました。

サマルカンド市長を表敬訪問した際には、今後の交流の活発化について話し合わせ、学校交流や介護人材の受入に向けた具体的な協議も行われました。

近い将来において奈良市で開催が目指される「ウズベキスタン特別交流展」。シルクロードの要衝地として栄えた悠久の都サマルカンドの地から数多くの至宝が奈良へやってくるのをぜひ心待ちにしていきたいと思います。

「寄稿者:奈良市」



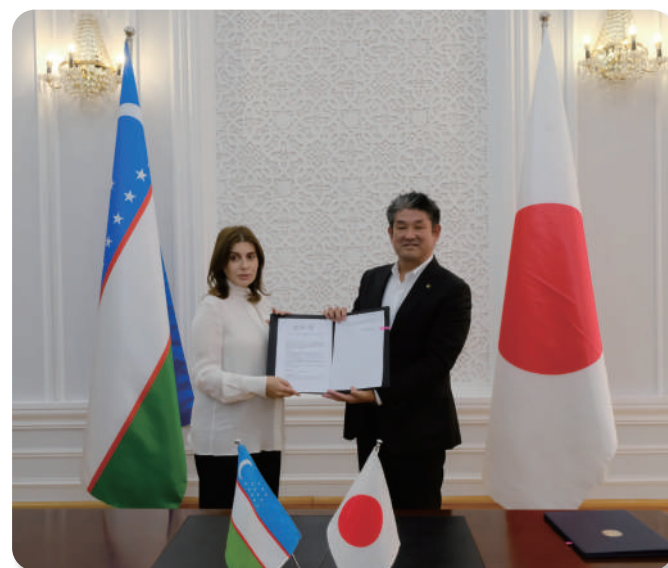
UNWTO総会でプレゼンテーションを行う仲川市長



UNWTO総会会場となった「シルクロードCongressセンター」



ウマロフ サマルカンド市長へ奈良一刀彫贈呈



展示協力覚書署名式

仲川奈良市長一行がオーストラリアのキャンベラを訪問

2023年11月3日～8日にかけて、仲川げん奈良市長、九里雄二奈良市議会副議長をはじめとする6名の奈良市訪問団が、姉妹都市提携30周年を迎えたオーストラリアのキャンベラを訪問しました。

11月4日、訪問団一行は、キャンベラ奈良平和公園で開催された「キャンベラ奈良キャンドルフェスティバル」に出席しました。これは、2003年の姉妹都市提携10周年の機会に、奈良市訪問団が燈花会のカップ1,000個にろうそくを点灯したことを始まりとする、キャンベラで最大規模のイベントです。仲川市長は、現地で受けた取材の中で、草の根交流を大事にすることで世界平和に繋げることの重要性を語りました。

11月5日には戦争記念館を訪問し、奈良市及び奈良市議会から戦没者への献花を行いました。翌11月6日には、アンドリュー・バー首都特別地域(ACT)政府首席大臣ほか同政府関係者と会談し、記念すべき周年を共に祝うとともに、両都市間の絆を改めて確認しました。

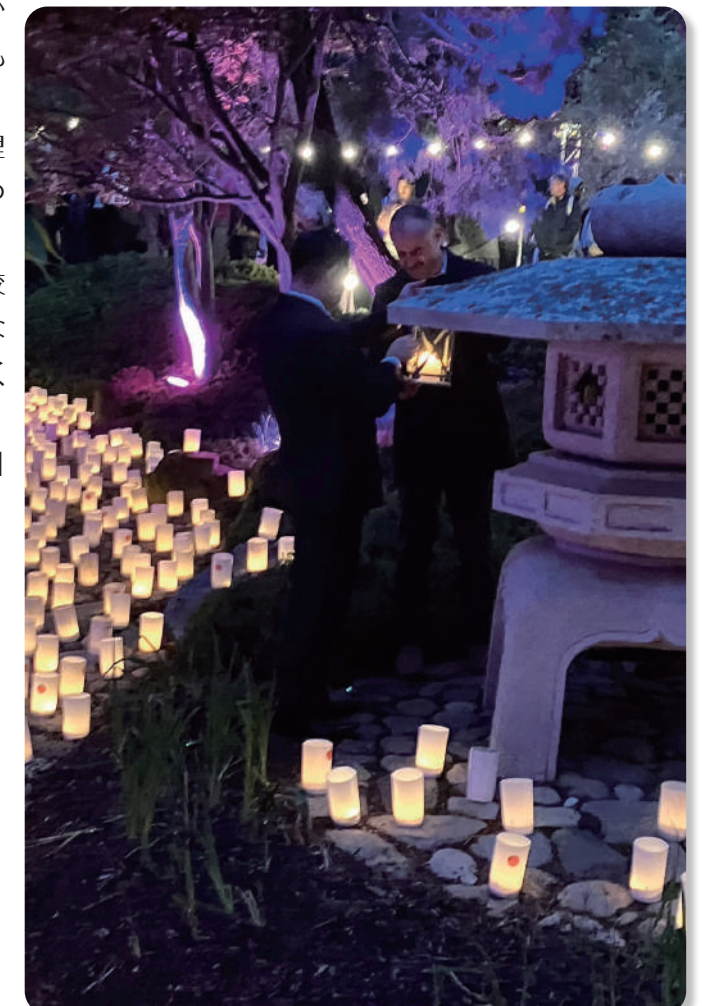
現地日程最終日の11月7日には、キャンベラのごみ処理施設等を訪問し、気候変動対策を念頭に置いた取組等について意見交換を行いました。

今回の訪問を機に、奈良市とキャンベラは、教育・学校交流やビジネス交流、芸術文化ほか幅広い分野での更なる交流を深めながら、姉妹都市提携60周年を目指すべく次の30年に向けて動き出しました。

「寄稿者:奈良市」



会談前に関係者と談笑する仲川市長



キャンベラ奈良キャンドルフェスティバルの様子



首都特別地域(ACT)政府関係者との会談の様子